

東京大学海洋研究所共同利用シンポジウム

東シナ海を主としたガラモ場と流れ藻の分布と生態

日時：2010年3月23日(火曜日) 9:50~16:40

場所：東京大学農学部弥生講堂A N E X セイホクギャラリー

<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/map.html>

コンピナー

青木優和（筑波大学下田臨海実験センター）

小松輝久（東京大学海洋研究所）

開催趣旨

東シナ海に面する九州のガラモ場では、温暖化の影響が亜熱帯性ホンダワラ類の増加と温帯性ホンダワラ類の減少という形で顕在化していることが指摘されている。しかし、温暖化によるガラモ場への影響が、東シナ海およびその下流域の流れ藻や打ち上げ藻に関係しているのかなど、まだはっきりしていない。また、ガラモ場は流れ藻の供給源として重要であり、ブリ稚魚のモジャコを介して大きな影響を及ぼしている。そのため、今後の東シナ海における流れ藻の状況について予測することが社会的にも要請されている。一方、近年、日本以外の東シナ海沿岸のガラモ場分布に関する研究も進展している。そこで、本シンポジウムにおいて関係する研究者が一同に会し、これらの情報を交換し、東シナ海のガラモ場分布、流れ藻、その下流域の流れ藻や打ち上げ藻などの現状を総括することを目指している。それらを踏まえた上で、今後の研究協力についての可能性についても探ってみたいと考えている。

プログラム

3月23日(火)

9:50~10:00 開会挨拶および趣旨説明 小松輝久（東大海洋研）

1. 東シナ海のガラモ場と流れ藻

座長 青木優和（筑波大学下田臨海）

10:00~10:30 浙江省南鹿島のアカモク分布

立川賢一（流域研）・上井進也（新潟大院自然）・

伊藤知子（筑波大院生命）

10:30~11:00 韓国南部のガラモ場と海藻養殖 鯨坂哲朗（京大院農）

11:00~11:30 九州沿岸のガラモ場の現状 八谷光介（西海区水産研究所）

昼食

座長 立川賢一（流域研）

12:50~13:20 遺伝子配列から探る東シナ海流れ藻の起源

上井進也（新潟大院自然）

13:20~13:50 高解像度海洋大循環モデルを用いた東シナ海流れ藻の起源の推定

小松輝久・水野紫津・葉國分優孝（東大海洋研）・

Filippi JB. (Univ. Corse)・笹井清二（JAMSTEC）

2. 黒潮域における流れ藻と打ち上げ藻

13:50～14:20 土佐湾における流れ藻の分布と種組成の経年変化
田井野清也（高知水試）

14:20～14:50 和歌山県白浜地先における打ち上げホンダワラ類の季節変化
木寅佑一朗・鯨坂哲朗（京大院農）

14:50～15:00 休憩

3. 流れ藻の付着動物

座長 鯨坂哲朗（京大院農）

15:00～15:30 流れ藻の付着動物 青木優和（筑波大下田臨海）

15:30～16:00 流れ藻に付着するエボシガイの生態
水野紫津葉・小松輝久（東大海洋研）・青木優和（筑波大下田臨海）

4. 総合討論

司会 小松輝久（東大海洋研）

16:00～16:30 総合討論

16:30～16:40 閉会の挨拶 青木優和（筑波大下田臨海）